センター活用事例
秋田県
よろず支援拠点

# 01. 》株式会社 釣り東北社

## 紙からWebへ大変身
## 釣り人口増加に向けた新たな取組もスタート

“釣り”をもっと
秋田の強みとして
知ってもらいたい

代表取締役社長　伊藤 克朗

株式会社 釣り東北社
〒010-1617
秋田市新屋松美ガ丘東町7-4
TEL:018-824-1590
https://tsuri-tohoku.com/
HP


### 時代の変遷を見据えた大変革

秋田をはじめ、東北の釣り情報を網羅し、釣り好きのための情報を発信し続けてきた株式会社釣り東北社。今年で創立41年目を迎える。当初は秋田のみの情報を掲載していた季刊誌だったが、反響の大きさから東北エリア全域になり、月刊誌となった。佐々木清治・現取締役会長から代を引き継ぎ、現在、代表取締役社長を務める伊藤克朗さんにお話を伺った。

インターネットやSNSが普及したことで、雑誌の売上は徐々に低下。リアルタイムに情報を発信できるSNSは釣りと親和性が高い。一方月刊誌はリアルタイムという訳にはいかない。そこで５年ほど前に雑誌からWebマガジンへの切り替えを検討し始め、サイト構成などをよろず支援拠点に相談した。新しい情報とアーカイブとして40年分のストックがある情報を整理した。一方でこれまでは雑誌の販売によって収益を上げていたものの、定期刊行物がなくなることで収益を広告収入に切り替える必要が生じていた。

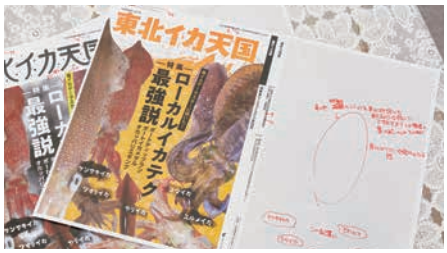
### 釣りを知らない層との接点を作り始める

伊藤さんは時間をかけて付き合いを深めた釣り業界のメーカーを訪問。月刊誌からWebマガジンへの切り替えについて説明し、東北地方の釣人たちが求めている情報を提供することを条件に、スポンサー契約を打診した。「東北エリアに営業所を持たないメーカーが、メリットを感じて契約してくれた」と振り返る。

広告獲得の目処もつき、昨年12月に最終号を発行。表紙には「これまで毎月ありがとう。これからは毎日よろしく」とメッセージを記し、翌月からWebマガジンをリリースした。不定期刊行物として別冊ムック本などの制作・販売は続けていく予定で、間もなくイカをテーマにしたものが発行となる。

釣り体験をコンテンツ化したいという要望もあり、他社と連携したイベントの運営なども実施するなど、新しい動きが活発になってきた。釣りを知らない層のニーズを把握することで新たなビジネスのヒントを得るチャンスが広がるかもしれない。

カリスマ的人気を誇る釣人が釣り上げた、
見事なタイの記事が掲載されているWebページ。




間もなく校了を迎えるという別冊本“東北イカ天国”のゲラ。
「イカ釣り好きのための編集をこだわった」と伊藤さん。

8月末にはローカルパワー・道の駅岩城とコラボし、
ホンモロコの釣り堀イベントを開催。

▶活用事例　秋田県よろず支援拠点

幅広い経営知識と高い専門性を有するコーディネーターが、相談者の課題を抽出し、解決を目指した提案に基づきチームで支援します。
［お問い合わせ］秋田県よろず支援拠点　TEL.018-860-5605